

今回のテーマ

# 命をつなぐプロジェクト

1月17日のお昼の校内放送で前期生徒会執行部が取り組んできた活動について紹介しました。「はるかのひまわり絆プロジェクト」です。これは、「はるかのひまわり」を育て採取した種を配布する過程で由来を伝え、災害の悲惨さと共に命の尊さを再考する機会とする事で、「人の尊厳」と「人との関わりの大切さ」を知る感性豊かな地域社会を醸成する事を目的としたものになります。本校の執行部役員が「はるかのひまわり」の種を譲り受け、これを学校で咲かせたいという思いからスタートしました。

前期生徒会執行部が5月に種を植えて、水を与えながら育てたことにより、職員室付近の花壇に多くのひまわりが咲きました。



1月17日は6434人が亡くなった阪神・淡路大震災の発生から30年でした。そこで、後期執行部が『あの日をわすれない はるかのひまわり』をお昼の校内放送で朗読するなどしました。この本は、震災で妹を亡くした少女（加藤いつかさん）の10年を描いたノンフィクション絵本です。後期執行部が作成した「はるかのひまわり絆プロジェクト」に関する説明動画を来年度の新1年生にも観てもらい、ひまわりを次年度以降も本校で育てていきたいと思っています。



指田和子(著)  
鈴木びんこ(イラスト)  
出版社:  
PHP 研究所  
発売日:  
2005年1月5日



説明動画を制作した後期生徒会執行部員

「はるかのひまわり」の種を譲り受け、本校で育てたいと思ったのは2年6組の徳丸<sup>えま</sup>愛真さんでした。本人に今の思いをインタビューしました。

### 質問①

「はるかのひまわり」をいつ知りましたか？また、種をどのように手にいれたのですか？

(答え)

小学校3年生のときの担任の先生から教わりました。神戸市の出身で震災の体験者です。小学校の理科の授業ではるかのひまわりの種を植えました。そして、その年の文化祭で配られた種をもらってから、毎年家で育てています。



### 質問②

泉が丘中学校でもはるかのひまわりが咲いたことについて、どのように感じていますか？

(答え)

嬉しいです。これまで育ててきたひまわりが、多くの人に知らえてもらえてよかったです。いつ起こるか分からない災害を忘れず、自分の命を守る備えをしてほしいと思っています。

私は今まで何度か引っ越しをするたびに、色々な県の友達に種を分けてきました。これからは地域学校園の小学校の児童にも「はるかのひまわり」を知ってほしいです。そのために、来年度もまた種を植えてほしいと思っています。



種を植えて育てた前期生徒会執行部員

**裏面に、お昼の校内放送を聞いた後の生徒たちの感想を載せます。ぜひご覧ください！**

私は、大切な人を自然災害や病で亡くした経験が無いが、もしも自分の周囲の人がそうならと考えるだけで虚しさや不安で胸がいっぱいになる。そ実際にそれを経験した遺族の方々は、私が想像する苦しみは何倍ものものを抱えて生きていかなければいけないのだろう。だからこそ、災害後の長期期間の遺族に対する支えが必要だと思う。

命の尊さははっきり言って言葉で表すことができないと感じています。阪神・淡路大震災では沢山の人がなくなりましたが、ここにはもう戻ってこれません。この深い悲しみを人としてどう表現していくかが未来へつなぐと感じました。やり方は人それぞれですが、ゴールはみんな同じです。いちばん大切なことは未来につなげていくことだと感じました。

ただのひまわりだと思っていたものが阪神・淡路大震災に関連するものだとして驚いた。ひまわりにも生命があるから永遠と同じものは残せないけれど、その種を復興のシンボルとして後世まで繋いでいくというところに、本当の意味では途絶えない命の尊さを感じた。

いつ地震が起こって大切な人がいなくなるかわからないので伝えられることは伝え、後悔が残らないようにしたいと思った。今回の話のように震災のことを忘れないように受け継いでいくことが大切だと感じた。

はるかさんのヒマワリの話聞いてヒマワリという一つの植物から生命の尊さを学べるのは日本人の心を想う心があるからなのではないかと感じました。被災者の方の辛かった思い出を無駄にしないよう、これからの日本人みんなに生命を尊く思う心が根付くよう、このヒマワリを繋いでいきたいと感じました。地震などの自然災害はどうにも防ぐことができないからこそ、人にできることを探していきたいです。

思わず涙が溢れてしまった。  
はるかさんのお母さんの「重かったやろ、堪忍な」が切なく、心に残った。  
はるかさんのお姉さんが「母親に一切見られない」という気持ちも理解でき、居た堪れない気持ちになった。震災はあってはいけない、とは思いますが、どうしても発生してしまうことだから、誰も憎めなくて、とても辛かったと思う。

「はるかのひまわり」という取り組みをこの学校がやっていることは階段にある掲示物を見ていたから知っていた。しかし、このような背景があったことは知らなかった。来年もひまわりを植えるようなら、注目して見たい。

阪神淡路大震災では、トリアージを行ったという話を聞いたことがあります。助かるはずの命が助からないということが震災では普通にあるので、今このような生活ができているありがたさを改めて痛感しました。

世界全体で、80億もの人の命が地球に存在してるけど、その中でも全く同じものっていうのはなくて、やっぱり一人一人の命がそれぞれ違って、かけがえのないものであると思っています。必ず誰かにとってその人は必要であって、その生命が失われることはとても悲しいことです。人間が子孫を繁栄させるために「死」はあると考えますが、命に限りがあるからこそ、大事にすべきだと思います。

# 3年

# 2年

# 1年